

「時をよく用いなさい」

2019年02月23日

エフェソの信徒への手紙5章15節～20節 愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。だから、無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい。酒に酔いしれてはなりません。それは身を持ち崩すもどです。むしろ、霊に満たされ、詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい。そして、いつも、あらゆることについて、わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝しなさい。

「著者」は、「愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい」と言う。箴言は、「主を畏れることは知恵の初め。無知な者は知恵をも諭しをも侮る（箴言1:7）」と、神を畏れることが知恵の初めであると教えている。アウグスティヌスは、「あなたは私たちをあなたに向けて造られ、私たちの心は、あなたのうちに安らうまでは安んじない」書き残した。確かに、全能の神を信じ、その方の愛を受け止める時、平安に満たされて生きることを喜ぶ者となる。

「著者」は、「時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです」と言う。パウロは、フィリピ書2章15節、16節aで「よこしまな曲がった時代の中で、非のうちどころのない神の子として、世にあって星のように輝き、命の言葉をしっかり保つでしょう」と、曲がって、悪い時代でも信仰を保てと書いている。主イエスは、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」という言葉で宣教を始められた。そして、過越祭に十字架で死ぬように、時を計りながら、公生涯を歩んでおられる。そして、ヨハネ福音書は「言（イエス・キリスト）は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった（ヨハネ1:11）」と、世の民はイエス・キリストを拒否したと、度々書いている。世は拒否したけれども、イエス・キリストはこの世を愛されたというのが、ヨハネ福音書のメッセージである。「著者」も今は悪い時代と捉えている。だから「時をよく用いなさい」と言っているのである。

パウロは、時に敏感であった。「時」はギリシア語で「クロノス」と「カイロス」がある。「クロノス」は自然の時の流れであるのに対し、「カイロス」は神が直接関わる時である。パウロは全ての時を「カイロス」と捉えている。Ⅱコリント6:2節で、「なぜなら、／『恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた』と神は言うておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日」と述べ、全ての時を、神が関わるカイロスと見なしている。だから、「わたしの身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったと知ってほしい（フィリピ1:12）」と、投獄された悪い時にも、宣教が前進していく状況を生み出したのである。パウロには、「時」にもう一つの理解があった。「更に、あなたがたは今がどんな時であることを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。日中を歩むように、品位をもって歩もうではありませんか（ローマ13:11～13a）」という全き救いが完成する終末の時への待望である。

「著者」は、時をよく用い、神の御心を悟り、霊に満たされ、詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌い、父なる神に感謝しなさいと勧めている。